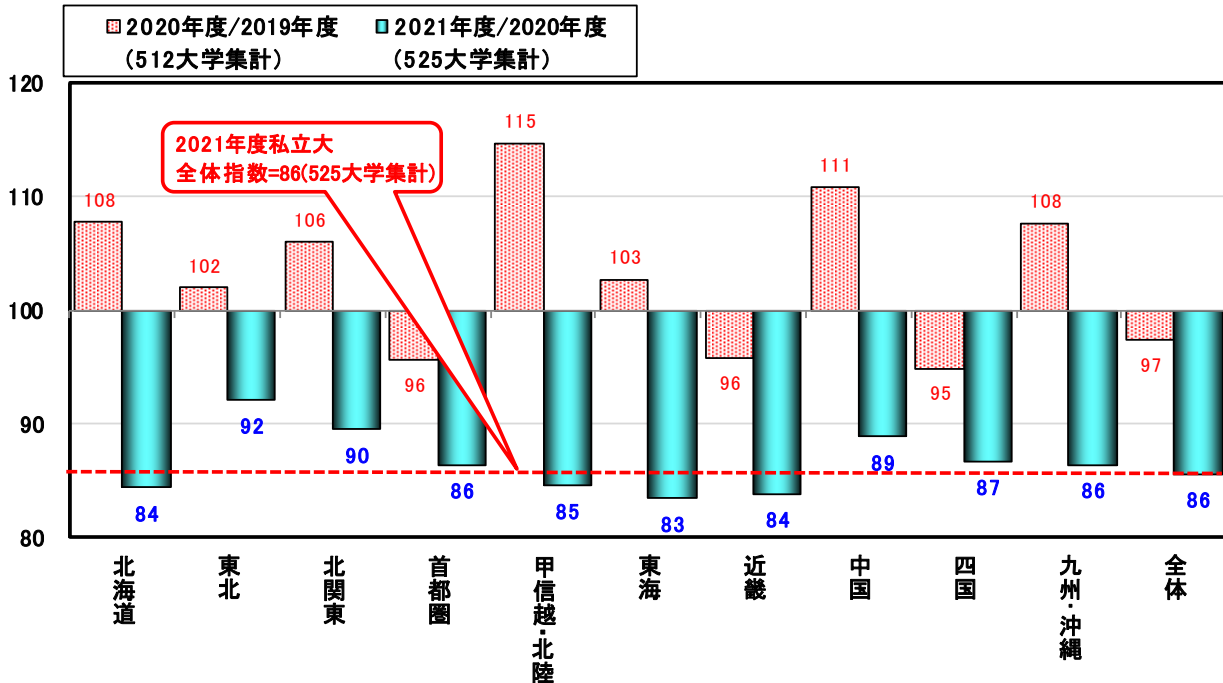


2021年度入試状況分析【私立大】

本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

地区別志願状況・合格状況

志願者数は東北を除いた地区は、いずれも私立大全体とほぼ同じ減少率
〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



上のグラフは、私立大一般選抜の大学所在地の地区別(以下「地区別」)の延べ志願者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

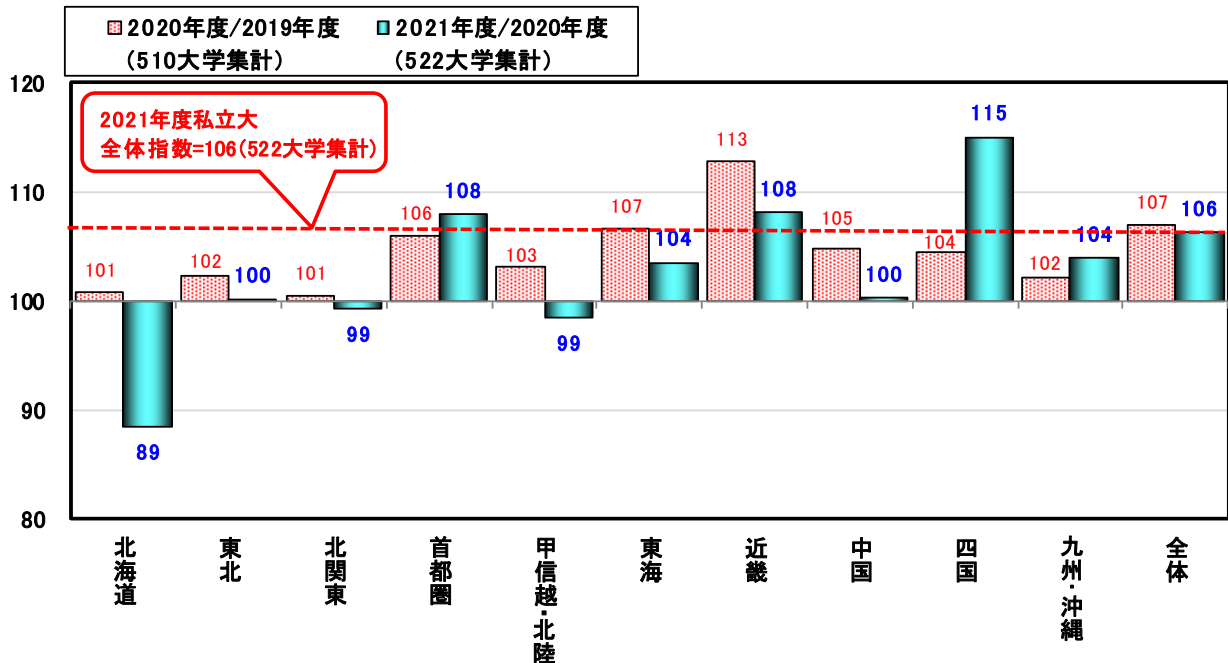
地区別の志願状況では、9地区全てで減少しました。東北(92)を除くと、いずれも私立大全体で(86)前後の減少率となりました。特に募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏を含む首都圏(86)、東海(83)、近畿(84)についてはいずれも減少で、指数も私立大全体とほぼ同じでした。

前年度は、定員厳格化の中で、都市部の大学を敬遠し、地方が増加するという傾向でしたが、今年度は地方から都市部への移動の流れが止まり都市部の大学は減少、また地方では景気悪化もあって国公立大志向が高まり私立大が減少という流れの中で、いずれの地区でも私立大の志願者数は減少傾向となっており、近年とは大きく動向が変化しました。

2021年度入試状況分析【私立大】

合格者数は大都市圏で増加だが、地方では減少と対照的な状況

〔私立大一般選抜 地区別合格状況〕



上のグラフは、私立大一般選抜の地区別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

四国では、地区内で最大規模の大学である松山大(143)が大幅に増加した影響で増加しました。本州では、首都圏(108)、東海(104)、近畿(108)と特に募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏での増加率が大きくなりました。一方で、北海道(89)、甲信越・北陸(99)など減少している地区もありました。地方では志願者数が減少したことで、合格者数を増やすことができず、入学者を確保するのが厳しい状況になったことが推察されます。

系統別と同じように、「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、四国(+28)は先に述べた松山大の影響で、最も競争が緩和した地区ですが、これを除くと首都圏(+22)、東海(+21)、近畿(+24)の3大都市圏で大きく競争が緩和しました。一方で、値の小さい北海道(+4)、東北(+8)でも競争は緩和していますが、3大都市圏ほど大きな緩和は見られませんでした。